震災乗り越え事業再開

東日本大震災の大津波は宮城県の中小企業も容赦なく襲い、施設に壊滅的な被害をもたらした。深い痛手に再建を断念した事業主も少なくないが、宮城県産業復興相談センターや中小企業基盤整備機構などの支援を受け施設を復旧。事業再開にこぎつけた企業もある。

広告

セイホウサービス（名取市）

借金返済凍結で活路

中村幸江代表取締役

「社員という最大の宝が残っていたから事業を再開できた」と語る中村代表取締役

紹介された産業復興相談センターに二重ローン対策をしてもらった。震災前の借金と両方返そうと意気込んだが、現実的に無理だった。前の借入金を買い取ってもらい、元利返済を凍結できたのは大きかった。相談センターの担当者には親身に対応していただいた」

―今後の目標は。

「震災前を100としたら、今の事業規模は70くらい。まず5年先を目標に前の水準に戻したい。身の丈に合った復興を目指す。社会貢献も目標。以前、特別支援学校の生徒を実習生として受け入れ育成して成果を上げた実績がある。障害のある方々を積極的に雇用し育てたい」

物。思い入れはあったが、事業の存続は難しいと思った。それほど壊滅的な被害だった」

―それでも事業再開を決めたのはなぜか。

「震災の1週間後、全社員を集めていった解雇することを告げ、今後どうしたいか意見を聞いた。社員たちは会社を再建したいと言った。私には自信がなかったが、社員たちがやりたいと言う。皆に支えられてやってきたので、私一人でやめるわけにはいかない」

―どう再開したのか。

「休業中にお客が離れないように得意先を回り、つなぎ留める努力をした。泉区に一軒家を借り、関東の協同組合の支援を受け、洗濯機5台を導入して納品する態勢を整えた。とにかく仕事をして、昨年7月16日、名取市増田に見つけた賃貸物件に引っ越して本格的に事業を再開した」

―資金的な苦労もあったのではないか。

「借金だけ残り、元手はなかったが、金融機関や組合に助けてもらった。商工会議所に前に移転新築した建

―貸しおしぼり業を営んでいるが、震災による事業への影響を伺いたい。

「仙台市の蒲生地区（宮城野区中野高松）にあった事務所兼工場は設備や車両も含めて全て流失した。主人亡き後、女手一つで8年と思った」